

「DV 性暴力被害者が法律でどう扱われるか。～裁判の事例をとおして～」

1 部・基調講演：「性暴力被害者への法的支援の現状と課題について」

講師：弁護士 雪田 樹理さん

(1990年に弁護士に登録。大阪弁護士会性暴力被害
検討プロジェクトチーム座長)

概要 外国人問題や女性や子どもの権利に関する問題を専門に調査、
研究。とりわけ、性暴力、セクシャルハラスメント・ドメスティ
ックバイオレンスの事件を数多く扱っている雪田弁護士から報
告。



雪田 樹理さん

内容

1) 性暴力の実態

性犯罪の認知件数は、強姦：H23年 1185件でH16年から減少傾向にあり、強制わいせつ：H23年 6870件で前年に比べ減少している。数値の上ではこのことに取り組んでおられる方には少ないと感じられるが、あくまでも認知件数であり背景は深いとの見解を示された。

また内閣府のH23年「男女間における暴力に関する調査」〈女性のみ質問〉では

*これまで異性から無理やり性交された経験がある女性は7.7%

*いつの時代に被害にあったか？

小学生以下 13.4% 中学生 5.2% 中学卒業から19歳まで 20.1% 20歳代 35.1%
30歳代 14.2% 40歳以上 7.5%と未成年者に被害が多いとのこと。

これは女性のみ質問をしているため男性の数字は出ていない。男性にも現実的に被害はあるが声を上げにくく救済も出来にくいのが課題である

*加害者は？

面識のある人 76.9% うち良く知っている 61.9% 顔見知り程度 14.9%

全く知らない人 17.2%

日常生活で良く知っている人からの被害が多い。暗い夜道は気を付けてくださいというメッセージが流れているが、日常生活の中でも、地域、学校、職場なども被害がありうると見過ごしてはならないとのこと。

2) 相談の実態

*性暴力被害者はどこにも相談していない（上記内閣府調査）

異性から無理やり性交された経験のある女性のうち被害をどこにも相談しなかった人 67.9% (DVは41.1%) 相談先は友人、知人 18.7%で一番多いが、家族、親戚は10%を切る。警察・専門機関など非常に少ない。その他実例を通して詳しい説明があった。

3) 今後に向けて

*捜査機関（警察・検察）や裁判所の専門性の確保＝性犯罪とはどんなものか理解することが大切。韓国では専門部門が設けられている。

- * 捜査機関と性暴力救援センターの連携が必要。
 - * 初期供述の保全（刑事・民事・児童福祉）。
 - * 被害直後から専門性を備えた弁護士による法的支援を提供できる体制の整備。
 - * 安全な居場所の提供。
 - * 支援員によるソーシャルワーク型ケア。性暴力を受けた人から電話で聞くだけでなく一人一人に寄り添ってその人が必要な支援、心理的、精神的なケアまた経済的な支援を長期的に考えていく必要があるなど、事例にもとづいた具体的方法を伺いより課題が鮮明になった。
- （文責 松森京子）

2部・対談：「性暴力被害の現状と私たちに、今出来る支援とは・・・」

概要 1部の雪田弁護士と、岡山・倉敷で女性問題にも取り組み、活躍中の清野幸代弁護士が表題をテーマに対談。清野弁護士が最初に論点を絞り質問、その後会場からの質問も含め整理し質問する形でおこなわれた。

内容

- 1) 無罪判決が続いていることについて

最高裁で無罪が続いている性犯罪について、痴漢など物的証拠が得られず、供述のみでは犯罪性を証明できなかったケースが雪田弁護士から報告され、物的証拠が収集できDNA鑑定などできるセンターの役割が明確になった。
- 2) 本人の告訴がないと加害者の罪が問われないことについて

米軍の集団レイプ事件など被害者の年齢が低いことで告訴が取り下げられるケースの多い中、判断を本人に委ねられることは問題。告訴がなくても加害者の罪を問う仕組みの必要性が語られた。
- 3) 男性被害の実態調査と被害者支援の仕組みを政策的にすすめてほしい。
- 4) 岡山の現状と今後の課題について

警察と団体、産科医会などネットワークの仕組みができたが、24時間相談を受ける場所があるかないかで、被害者の安心感は違う。国連の基準では女性20万人に一か所の被害者救援センターとなっている。ぜひ岡山でも！
- 5) 橋下徹大阪市長(維新の会代表)の一連の発言や裁判官の無罪判決に見られる女性蔑視の現状をみると再教育の必要性がある。



清野 幸代さん

まとめ

どこに相談すれば良いのかわからない、受け止める側の支援体制の充実など課題はあるが、専門家のネットワークと24時間相談を受けられ医療支援ができる場所の必要性は大阪のセンターの相談数が毎年増えていることが物語っている。ぜひ岡山にも性暴力救援センターを作りたい！

雪田弁護士より、大阪では議員のネットワークが組めていないが、岡山では超党派の女性議員がネットワークを組んでいることはすばらしいとの感想もあった。（文責 竹永みつえ）